

出荷(譲渡)と具体名割り当ての仕組み

【前提1】AIRACは、譲渡証サービス利用者の利用世代情報を管理しています。

表1: 利用世代情報 (例: 2010/3/15 現在とする)

利用者ID一覧	世代	変更日	商号
Axxxx123	第1世代	2005/12/27	株式会社A
Dxxxx456	第1世代	2005/12/27	有限会社C

※実際は「商号」の他に「代表者の役職及び氏名」及び「住所」も管理しています。

【前提2】一般的に、証明書発行者は出荷する際に譲渡人及び譲受人(出荷先)の具体名を入力せず、予めAIRACに登録済みの利用者IDを利用しています。

表2: 出荷先一覧(例)

出荷先リスト	名称(具体名)	利用者ID
自社	株式会社A	Axxxx123
出荷先	有限会社C	Dxxxx456

※譲渡人は、株式会社CCCへ出荷する場合、「Axx12345は、YYYY/MM/DDにDxx12346へ出荷する」という内容で譲渡証を作成しています。

【アクション】AIRACは、利用者から譲渡証記載内容を変更する申し込みを受けると、以下のとおり利用世代情報を更新します。

表3: 利用世代情報(例:Dxx12346から商号を変更する申込書を受領した場合)

利用者ID一覧	世代	変更日	商号
Axxxx123	第1世代	2005/12/27	株式会社A
Dxxxx456	第1世代	2005/12/27	有限会社C
Dxxxx456	第2世代	2010/04/01	株式会社C (新規追加)

※AIRACは利用世代情報を利用者ID毎に2世代まで管理します。(3世代目の申し込みを受けた場合は、第一世代の情報を削除します。)

・本資料は、利用者IDを用いて出荷(譲渡)した場合に適用されるもので、具体名を入力して出荷(譲渡)する場合には適用されません。

【例1: 2010年3月15日にAxxxx123(出荷元)がDxxxx456(出荷先)へHH-12345を出荷した場合】

- Axxxx123は、2010年3月15日を譲渡年月日としてHH-12345をDxxxx456へ出荷した。
- AIRACは、1. の出荷情報を基に譲渡証情報の具体名を割り当てます。(表1参照)
譲渡人の具体名は 「株式会社A」 を適用する。
出荷先の具体名は 「有限会社C」 を適用する。

【例2: Dxxxx456が、2010年4月1日に商号を変更するための申し込みを事前に行っている場合】

- Dxxxx456は2010年4月1日に商号を変更するため、3月中に申し込みを行った。
- AIRACは、1. による申し込みを受け、4月1日を変更日として3月中に利用世代情報を更新します。(表3参照)
- Axxxx123は、2010年3月31日を譲渡年月日としてHH-12345をDxxxx456へ出荷した。
譲渡人の具体名は 「株式会社A」 を適用する。
出荷先の具体名は 「有限会社C」 を適用する。
- Axxxx123は、2010年4月1日を譲渡年月日としてHH-23456をDxxxx456へ出荷した。
譲渡人の具体名は 「株式会社A」 を適用する。
出荷先の具体名は 「株式会社C」 を適用する。

※出荷先の具体名は、2010年4月1日までに申込み手続きを行ったため、4月1日以降であっても、正常に具体名を割り当てることができる。

【例3: Dxxxx456が、2010年4月1日の変更日を過ぎてから申し込みを行った場合】

- Axxxx123は、2010年3月31日を譲渡年月日としてHH-12345をDxxxx456へ出荷した。
譲渡人の具体名は 「株式会社A」 を適用する。
出荷先の具体名は 「有限会社C」 を適用する。
(※AIRACは、表1から具体名を割り当てます。)
- Axxxx123は、2010年4月1日を譲渡年月日としてHH-23456をDxxxx456へ出荷した。
譲渡人の具体名は 「株式会社A」 を適用する。
出荷先の具体名は 「有限会社C」 を適用する。
(※AIRACは、表1から具体名を割り当てます。)
- Dxxxx456は2010年4月1日に商号を変更する申し込みを4月20日に行った。
- AIRACは、3. による申し込みを受け利用世代情報を更新します。(表3参照)
- Axxxx123は、2010年4月1日を譲渡年月日としてHH-34567を4月21日にDxxxx456へ出荷した。
譲渡人の具体名は 「株式会社A」 を適用する。
出荷先の具体名は 「株式会社C」 を適用する。
(※AIRACは、表3から具体名を割り当てます。)

※2010年4月1日から20日の間に出荷先した分は、AIRACは表1から具体名を割り当てるため、旧商号が適用されません。